

小5

◆歴史人物（1）◆

下巻5回

氏名

得点

各4点
100点

1	私は邪馬台国の女王として、中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号をもらいました。私の国は女性の王の方がよくまとまるみたい。	
2	私は5世紀ごろ、南北朝に分裂していた中国に使いを送りました。「東は55か国、西は66か国、北は95か国を従えた」という内容です。私の名前を書いた鉄刀や鉄剣が、熊本県の江田船山や埼玉県の稲荷山で見つかっています。	
3	私は「最初の女性の天皇」の摂政になって、天皇中心の政治をおこないました。法隆寺や四天王寺を作らせたのも私です。	
4	私は607年にその頃、隋とよばれた中国に渡りました。「日が出るころの天子」という、手紙の表現が中国皇帝の怒りをかいました。	
5	私は645年に蘇我氏を滅ぼし、大化の改新という政治改革を行いました。白村江の戦いに敗れた後、近江（滋賀県）の大津宮で天皇に即位しました。	
6	私は問5の人物と協力し、大化の改新という政治の改革を行いました。のちに藤原という名前をいただきました。	
7	私は問5の人物の弟で、壬申の乱に勝って天皇に即位しました。都を作り、法令を定めるなど、天皇の地位と国の基礎固めを行いました。	
8	私は問7の天皇の妻で、のちに私自身も天皇に即位しました。日本で初の本格的な都の藤原京をつくりました。歴史上初めて上皇の位についたのも私です。	
9	私は仏教の力で国を治めようと、全国にお寺を造らせ、また都に大仏を造るよう命じました。何度も都を移した引っ越し好き？な天皇と思われています。	
10	私は仏教を広めるため、各地に橋や池などをつくり、民衆にしたわれました。後に大仏づくりにも協力しました。	
11	私は仏教を広めるため中国から日本に来ようとしたが、何度も失敗し、失明しながらもようやく6度目で成功しました。来日後は唐招提寺を開きました。	

12	私は遣唐使として中国に渡りましたが帰国できませんでした。「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも」と歌いました。	
13	私は長岡京や平安京に都を移し、律令政治を立て直そうとしました。	
14	私は問13の人物の命令で「征夷大將軍」となり、東北地方の蝦夷と戦いました。	
15	私は遣唐使の停止を進言しましたが、九州の大宰府にうつされてしまいました。死後は「学問の神様」としてまつられています。	
16	私は天皇と親戚関係を結び、摂政として政治の実権を握りました。「この世をば我が世とぞ思う望月の欠けたることもなしと思えば」と歌いました。	
17	私は問16の人物の息子です。京都の宇治に平等院鳳凰堂をつくらせたのは私です。	
18	私は関東地方で「新皇」と名乗り、反乱を起こした武士です。	
19	私は瀬戸内海で海賊をひきいて、反乱を起こした武士です。	
20	私は1086年に天皇の位を退いた後も、屋敷である「院」で政治の実権を握り続けました。	
21	私は武士で最初の太政大臣になりました。また大輪田泊で宋と貿易したり、巖島神社を保護したりしました。	
22	私は藤原氏の娘・影子さまに仕えました。長編小説の「源氏物語」は私の作品です。	
23	私は藤原氏の娘・定子さまに仕えました。「春はあけぼの」で知られる随筆の「枕草子」は私の作品です。	
24	私は9世紀初め唐に渡り新しい仏教を学びました。比叡山延暦寺で天台宗を広めました。	
25	私は9世紀初め唐に渡り新しい仏教を学び、高野山金剛峰寺で真言宗を広めました。また満濃池を改修しました。	

小5

◆歴史人物（1）◆

下巻5回

氏名

満点 とれ太

得点

各4点
100点

1	私は邪馬台国の女王として、中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号をもらいました。私の国は女性の王の方がよくまとまるみたい。	ひみこ 卑弥呼
2	私は5世紀ごろ、南北朝に分裂していた中国に使いを送りました。「東は55か国、西は66か国、北は95か国を従えた」という内容です。私の名前を書いた鉄刀や鉄剣が、熊本県の江田船山や埼玉県の稲荷山で見つかっています。	ぶ ゆうりやく 武（雄略天皇・ワカタケル大王）
3	私は「最初の女性の天皇」の摂政になって、天皇中心の政治をおこないました。法隆寺や四天王寺を作らせたのも私です。	聖徳太子
4	私は607年にその頃、隋とよばれた中国に渡りました。「日が出るころの天子」という、手紙の表現が中国皇帝の怒りをかいました。	おののいもこ 小野妹子
5	私は645年に蘇我氏を滅ぼし、大化の改新という政治改革を行いました。白村江の戦いに敗れた後、近江（滋賀県）の大津宮で天皇に即位しました。	なかのおおえのおうじ 中大兄皇子 てんじ （天智天皇）
6	私は問5の人物と協力し、大化の改新という政治の改革を行いました。のちに藤原という名前をいただきました。	なかとみのかまたり 中臣鎌足 （藤原鎌足）
7	私は問5の人物の弟で、壬申の乱に勝って天皇に即位しました。都を作り、法令を定めるなど、天皇の地位と国の基礎固めを行いました。	天武天皇
8	私は問7の天皇の妻で、のちに私自身も天皇に即位しました。日本で初の本格的な都の藤原京をつくりました。歴史上初めて上皇の位についたのも私です。	じとう 持統天皇
9	私は仏教の力で国を治めようと、全国にお寺を造らせ、また都に大仏を造るよう命じました。何度も都を移した引っ越し好き？な天皇と思われています。	しょうむ 聖武天皇
10	私は仏教を広めるため、各地に橋や池などをつくり、民衆にしたわれました。後に大仏づくりにも協力しました。	ぎょうき 行基
11	私は仏教を広めるため中国から日本に来ようとしたが、何度も失敗し、失明しながらもようやく6度目で成功しました。来日後は唐招提寺を開きました。	がんじん 鑑真

12	私は遣唐使として中国に渡りましたが帰国できませんでした。「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも」と歌いました。	あべのなかまる 阿倍仲麻呂
13	私は長岡京や平安京に都を移し、律令政治を立て直そうとしました。	かんむ 桓武天皇
14	私は問13の人物の命令で「征夷大將軍」となり、東北地方の蝦夷と戦いました。	さかのうえのたむらまる 坂上 田村麻呂
15	私は遣唐使の停止を進言しましたが、九州の大宰府にうつされてしまいました。死後は「学問の神様」としてまつられています。	すがわらのみちざね 菅原道真
16	私は天皇と親戚関係を結び、摂政として政治の実権を握りました。「この世をば我が世とぞ思う望月の欠けたることもなしと思えば」と歌いました。	藤原道長
17	私は問16の人物の息子です。京都の宇治に平等院鳳凰堂をつくらせたのは私です。	よりみち 藤原頼通
18	私は関東地方で「新皇」と名乗り、反乱を起こした武士です。	たいらのまさかど 平将門
19	私は瀬戸内海で海賊をひきいて、反乱を起こした武士です。	すみとも 藤原純友
20	私は1086年に天皇の位を退いた後も、屋敷である「院」で政治の実権を握り続けました。	白河上皇
21	私は武士で最初の太政大臣になりました。また大輪田泊で宋と貿易したり、巖島神社を保護したりしました。	たいらのきよもり 平清盛
22	私は藤原氏の娘・影子さまに仕えました。長編小説の「源氏物語」は私の作品です。	むらさきしきぶ 紫式部
23	私は藤原氏の娘・定子さまに仕えました。「春はあけぼの」で知られる随筆の「枕草子」は私の作品です。	せいしょうなごん 清少納言
24	私は9世紀初め唐に渡り新しい仏教を学びました。比叡山延暦寺で天台宗を広めました。	さいちよう だんぎようだいし 最澄 (伝教大師)
25	私は9世紀初め唐に渡り新しい仏教を学び、高野山金剛峰寺で真言宗を広めました。また満濃池を改修しました。	こうぼうだいし 空海 (弘法大師)